

偶成（大鳥圭介）

水陸 三千 共に 兵を 進め

両軍 今日 輸贏を 決す

丘に 上つて 一望すれば 敵方に 近し

袖に 触るるの 飛丸 憂として 声有り

水陸三千共進兵 兩軍今日決輸贏
上丘一望敵方近 觸袖飛丸憂有聲

解説 この詩は、五稜郭の戦いの激戦の様子を描いたものである。

語釈 ※輸贏||雌雄、勝敗。 ※方||ちようどいま。

※飛丸||飛来する弾丸。 ※憂||硬いものがふれ合う音の形容。

通釈 敵が水陸同時に三千の兵を進めて来た。今日こそ、いよいよ敵味方は勝負を決するときである。丘に登って四方を見わたせば、敵は凄まじい勢いで肉迫してくる。弾丸は雨あられのように飛来し、音を立ててわが軍服の袖に当たった。